

『ロビンス基礎病理学 原書10版-電子書籍(日本語・英語版)付』
お詫びと訂正

(2020.12)

この度は『ロビンス基礎病理学 原書10版-電子書籍(日本語・英語版)付』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
さて、本書初刷の記述に間違いがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、ここに訂正申し上げます。

該当箇所		内 容		
頁	行	誤	⇒	正
p.176	右段, 上から3行目	ミクリッツ症候群	⇒	ミクリッツ病
p.364	左段, 上から20行目	インフラソーム	⇒	インフラマソーム
p.540	左段 上から2行目	エステラーゼ	⇒	エラスターゼ
p.541	左段 下から3行目	エステラーゼ	⇒	エラスターゼ
	右段 下から10行目			
p.545	左段, 上から5行目	βブロッカー	⇒	βアドレナリン作動薬
p.545	左段 上から4~7行目	標準的な治療は, 抗炎症剤, 特にグルココルチコイドや, βブロッカーやロイコトルエン阻害剤(ロイコトルエンは気管支攣縮誘発作用をもつため)である。	⇒	標準的な治療は, 抗炎症剤, 特にグルココルチコイドや, βアドレナリン作動薬やロイコトルエン阻害剤(ロイコトルエンは気管支攣縮誘発作用をもつため)である。
p.547	図13-13	耳側のな上皮傷害/活性化	⇒	持続的な上皮傷害/活性化
p.823	右段 下から1行目	レクチン	⇒	レプチン
p.823	右段 最下行	レクチン	⇒	レプチン